

令和6年度 第1回京都市保健所運営協議会 摘録

令和6年7月17日（水）

午後1時30分～午後2時40分

京都府医師会館2階会議室211

1 出席者（敬称略）

<委員>

○ 関係団体代表委員

京 都 府 医 師 会：松田 義和

京 都 府 薬 剤 師 会：夏目 君幸

京 都 市 食 品 衛 生 協 会：小原 孝浩

京都府美容業生活衛生同業組合：（欠席）

京都府公衆浴場業生活衛生同業組合：（欠席）

京 都 府 歯 科 医 師 会：中村 雅彦

京都市保健協議会連合会：堺 紀恵子

京都府理容生活衛生同業組合：西 栄三

京都府旅館ホテル生活衛生同業組合：（欠席）

○ 各区地域保健推進協議会代表委員

北（西陣医師会）：田中 誠

左京（左京医師会）：塩見 聡史

東山（東山医師会）：（欠席）

下京（下京西部医師会）：井上 治

右京（右京医師会）：松木 正人

伏見（伏見保健協議会連合会）：小川 正雄

上京（上京東部医師会）：飯田 明男

中京（中京保健協議会連合会）：山本 真澄

山科（山科区健康長寿推進協議会）：雲林院 能英

南（南保健協議会連合会）：小澤 成介

西京（西京民生児童委員会）：小原 節子

<事務局>

○ 京都市保健所

京 都 市 保 健 所 長：池田 雄史

京 都 市 保 健 所 参 事：石崎 達郎

京 都 市 保 健 所 参 事：有本 晃子

京 都 市 保 健 所 次 長：八代 康弘

京 都 市 保 健 所 参 事：松村 貴代

（健康長寿のまち・京都推進室／健康長寿企画課）

健康長寿のまち・京都推進室長：藤田 智洋

健康長寿推進担当課長：濱口 大介

保 健 担 当 課 長：植崎 純子

健 康 長 寿 企 画 課 長：木下 尚彦

計 画 推 進 担 当 課 長：田賀 千津

（医療衛生推進室／医療衛生企画課）

医 療 衛 生 企 画 課 長：中濱 正晃

担 当 課 長：井高 健二

食 品 衛 生 担 当 課 長：西原 和美

予 防 接 種 担 当 課 長：吉田 健二

健康危機対策担当課長：上領 孝枝

生 活 衛 生 担 当 課 長：大原 隆

（障害保健福祉推進室）

施 設 福 祉 課 長：北垣 政治

（子ども家庭支援課）

子 育 て 支 援 担 当 課 長：南部 美紀子

2 開会挨拶

池田保健所長

3 議事

○ 議題・報告（１）令和６年度熱中症予防の取組について

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明。

【質疑応答】

（熱中症特別警戒アラートについて）

松田会長：新しい特別警戒アラートということだが、発出された時の学校や保育施設等の対応は、昨年と比べて何か変化があるのか。

榎崎課長：京都市立の学校、幼稚園においては、暑さ指数が31以上であれば原則、運動中止となる。また、配備している暑さ指数計を用いて、実際に活動する場所の指数に応じて運動実施を判断している。私立の保育園等でも本市所管課の幼保総合支援室から、私立学校等においては京都府の文教課の方から情報提供を行い、運動実施について暑さ指数に基づき各校の判断となっている。

松田会長：熱中症特別警戒アラートが発出された時でも、各施設の判断ということでしょうか。

榎崎課長：現時点ではそのようになっている。

松田会長：熱中症特別警戒アラートが各学校や産業衛生現場等にも当然出てくると思うが、産業レベルではまだクーリング対策等がある程度されても危険な状態があるかもしれないので、より具体的な指針みたいなものがあればわかりやすい。アラート発出はこれまでもあったが、特別警戒ということなので、危険な状況になった場合にある程度の実行性があるアラートでないと、普通の警戒アラート程度では水遊び等している保育園もあるので、具体的なことをアドバイスできれば良いと感じた。

（周知方法等について）

小原委員（西京）：クーリングシェルターの解放について、一般の方への周知方法はどのようなになっているのか。

榎崎課長：現時点では、京都市情報館での周知という形で実施する。

小原委員（西京）：これから周知方法を考え、一般の方にも周知か。

榎崎課長：現在、クーリングシェルターを募集している段階であり、周知に関しては、環境政策局も担当になるため、協力して取り組みを進めていくことになる。

小原委員（西京）：次に熱中症のチラシについて、私は民生委員をしており、独居老人や高齢者世帯に配布している。以前は、チラシだけではなく、クールタオルやうちわ等いろんなグッズがついており、高齢者の方々に大変喜んでいただき、すごく良かった。予算もあると思うが、チラシだけではなく、そういう方法も考えてほしい。

榎崎課長：貴重な御意見としては受け止めさせていただく。予算と合わせて検討する。

松田会長：保健センターも含めた役所でクーリングシェルターとして休憩できるスペースはあるのか。

榎崎課長：区役所ごとに入ることができる人数は異なるが、待合のための椅子は置いている。

松田会長：右京区役所や左京区役所はスペースがあると思うが、山科区役所は全くない。クーリングシェルターとして挙げるのであれば、ある程度のスペースが必要である。名前をクーリングシェルターに変えているだけで、実際に行っても休憩場所がないと休憩できない。そういったことを踏まえてクーリングシェルターの指定等を行ってほしい。

○ 議題・報告（２）令和６年度京都市保健所運営方針（案）について

⇒ 事務局（各所管課）から資料説明。

【質疑応答】

（自殺対策について）

松本委員（右京）：阪急電車の西院から西京極の間の踏切があるが、自殺の名所になっており、先日も亡くなられた方がおられた。

東尋坊であれば、見ている人がセンサー等で呼び止めるような取組をしていると聞いているが、当該踏切において、何か対策等について考えはあるのか。

松田会長：個別の案件であるため、答えにくいかもしれないが、行政として、その地域、その場所について危険なポイントということで把握しているのか。

北垣課長：特定の場所という形で把握しているということは特にはないが、報道等で当該踏切での自殺が非常に多いことは認識している。これまでからも広い意味での啓発は取り組んでいるところであるが、危険スポット等においてどのような取組ができるのかは、今後の課題と認識している。貴重な御意見としては受け止めさせていただく。

松田会長：危険スポットで見守りをするボランティア等の配置や、飛び込めないように物理的な策を設ける等、行政としても対応してほしい。

（肺がん検診について）

松田会長：各種健診の受診率が全国的に見て、少し低い。特に肺がん検診は京都市だけ、京都府それから京都府医師会で精度管理も含めて取り組んでいるが、少し違うフレームで取り組まれている。同じフレームでやった方がコスト的・手間的にも効率が上がるのではないかと思っている。京都府、京都府医師会とともに肺がん検診を行っていくことについて、予定や検討課題等があるのか。

濱口課長：本市のがん検診の受診率は、全国平均と比べて低い状況であるが、京都府医師会の御協力の下、がん検診委員会で精度管理を行っており、また、受診率向上に向けては、本年度から、４０歳代の偶数年の方を対象に個別勧奨等を進めていく予定である。少しでも受診率、受診機会の向上を進めていけるよう、今後も引き続き検討する。

松田会長：精度管理も、ＡＩを使ったシステムもやっているのので、京都府の人口の半分を抱える京都市に入ってもらえると、製造管理やコスト等の面でも非常に良いと思う。

（ＨＰＶワクチンについて）

松田会長：接種率について、高校２年生で４０．９％ということだが、数字の算出方法を確認したい。

吉田課長：去年の高校２年生が、小学校６年生から打った初回接種の件数を足し、令和５年度の

高校2年生の数で割った数値である。

松田会長：初回接種された方の累積ということで、最低1回は打っている割合ということで良いのか。

吉田課長：そのとおりである。

（その他 質疑応答等）

（DVについて）

田中委員（北）：患者の御家族等で、DVが疑われるような事案が時々ある。その際に地域包括支援センターに連絡することになっているが、DVについては、保健所や保健師は全く管轄外なのか。

檜崎課長：管轄外ではなく、小さい子どもがいる母親へのDVであれば、子どもはぐくみ室の母子の担当に、高齢世帯のDVであれば、健康長寿推進課に相談していただいたらよい。

（5歳児健診について）

松田会長：小児科会から出ていたものだが、5歳児健診について京都市ではどのような状況なのか。

南部課長：5歳児健診については、現在、検討中である。開始時期等は現時点で申し上げられないが、取り組む方向で検討する。

松田会長：5歳児健診の実施が全国的に進んでいないと聞いている。現実問題として難しいこともあるが、我々も協力しなければいけないと思っているので、早めに準備してほしい。

4 閉会挨拶

八代保健所次長